

① 認知症を理解しよう

認知症って
どんな病気？



？ 認知症とは

誰でも歳をとると、老化現象のため身体の動きが悪くなります。それは脳も同じです。人間の活動をコントロールする脳がうまく働かなければ、身体も精神もスムーズに活動できなくなります。

認知症は、知的機能（時や場所を記憶する・人などを認識する・計算する）が低下し、日常生活が困難になる、単なる老化現象とは異なる脳の病気です。

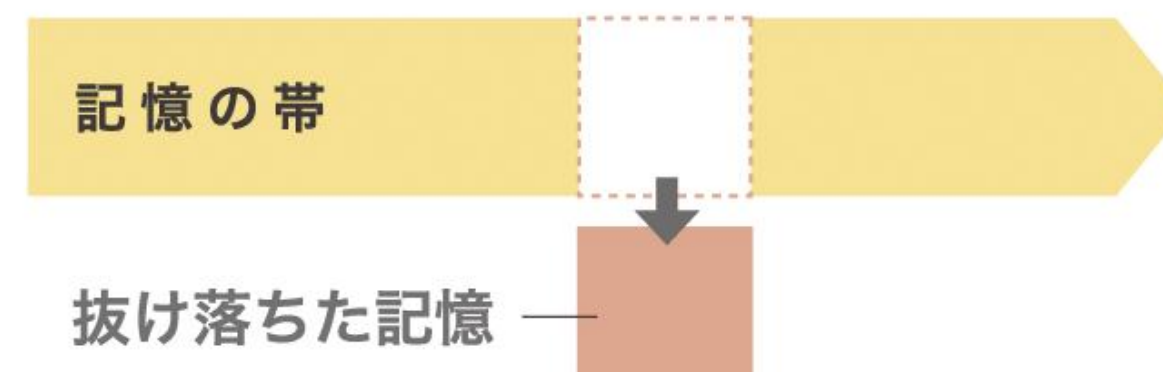
健常なもの忘れ



体験の一部のみを忘れるため、他の記憶から、もの忘れした部分を思い出すことができる。もの忘れを自覚している。

日常に生活に支障はない

認知症のもの忘れ



認知症のもの忘れは、体験全体を忘れていたために、思い出すことが困難。もの忘れを自覚できない。

日常に生活に支障をきたす

？ 認知症の主なタイプと原因

認知症を引き起こす原因はさまざまですが、なかでも「**アルツハイマー型認知症**」と「**脳血管性認知症**」が多くみられます。

タイプ	アルツハイマー型認知症	脳血管性認知症
原因	原因は不明ですが、脳の神経細胞が急激に減ってしまい、脳が小さくなることによって起こります。	脳の血管がつまったり、破れたりすることによって、その部分の脳の働きが悪くなり起こります。
特徴	記憶障害などの症状が現れますが、最初は目立たず、挨拶などは普通にできます。しかし、徐々に日常生活に支障が出てきます。多幸的な人格変化で、にぎやかなことを好む方が多いです。	段階的に悪化していくのが一般的です。ある能力は低下しても、別の能力は比較的大丈夫というように、まだら状の障がいの特徴です。感情面が不安定になり、静かな環境や、一人を好む方が多いです。

● 中核症状と周辺症状 ●

中核症状

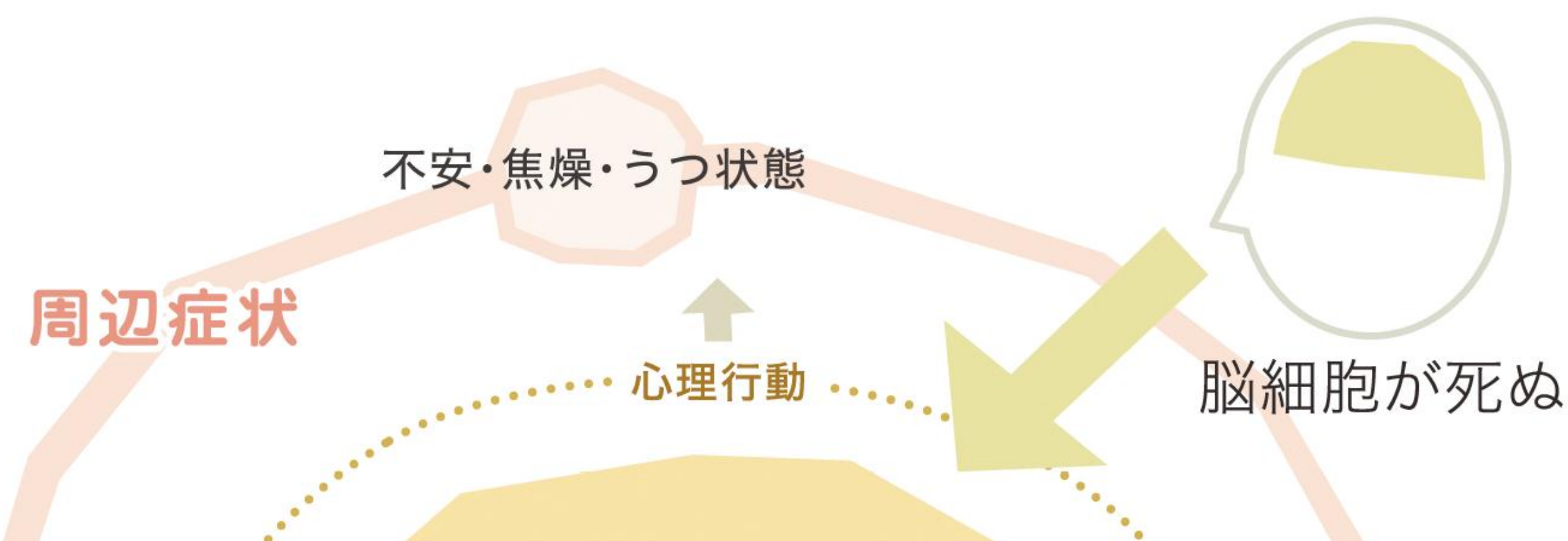
症状 1 記憶障がい

認知症の物忘れの特徴は、最近の出来事を記憶できない、体験した事を全て忘れてしまう、記憶が逆行する、などです。

症状 2 見当識障がい

時間や場所、季節感の感覚が薄れることから始まり、進行すると迷子になったりします。人間関係がわからなくなるのは、かなり進行してからです。

認知症の症状には、脳の機能低下によって直接起こる、中核症状といわれる記憶障がい、見当識障がい、判断力低下などがあります。この中核症状があるために出てくる様々な状態を周辺症状と呼び、日常生活への適応や介護を困難にします。しかしこの周辺症状は、本人の性格や環境など様々な要因がからみ合って起こるものなので、誰にでもみられるとは限りません。



周辺症状

症状 1 不安・焦燥・うつ状態

周囲が気づく前から本人は漠然と気がついていきます。そのため恐れや不安から、内に閉じこもり、うつ状態になることがあります。

症状 2 幻覚・妄想

しまい忘れたものを盗まれたと思い込む、もの盗られ妄想や、現実にはないものがあるように見える幻覚がおきます。